

経済情勢が悪化する中での発想の転換

1974年に創業し、大阪府東大阪市に本社を構えるハードロック工業株式会社(従業員45名、資本金1,000万円)は、緩まないナットである「ハードロックナット」の開発、製造、販売を行っている。同社の若林克彦社長は、「なにわのエジソン」との異名を持つ発明家である。

同社のハードロックナットは、日本の神社の鳥居の柱で緩み止めに使用されている楔(くさび)にヒントを得たものである。具体的には、2個のナットを使用する基本構造において、凸型の下ナットの凸部をボルトの中心軸から僅かにずらし、そこに凹型の上ナットを「ロックナット」としてねじ込むと、強力なロック効果が得られる仕組みとなっている。

このハードロックナットの価格は、通常のダブルナットより倍近く高い。このため、当初は多くの企業から拒絶されたが、様々な試験でねじ緩み防止効果が高く評価されると、同社のナットは徐々に世界中で採用されるようになった。現在では、国内外の新幹線、高速道路、原子力発電所、大手メーカーの生産設備などで幅広く活用されている。

現下の内外経済の悪化は、同社にも影響を与えており、大手メーカー等による新規設備投資の減少に伴ってナットの注文が減少している。しかし、同社は、大手メーカーの生産ラインが止まったことを「緩み止めナットへの交換を促すチャンス」と捉え、まさにピンチをチャンスとして活かすべく、従業員一丸となって営業活動に取り組んでいる。

